

令和6年度 第1回小樽市総合計画審議会 議事概要

開催日時：令和6年8月1日（木）15時～15時40分

開催場所：小樽市役所 別館5階会議室

出席委員：穴沢眞委員（会長）、荒木慶子委員、岡部唯彦委員、菊池博幸委員、斎藤仁委員、酒井隆裕委員、島口郁世委員、杉山奈穂子委員、高垣直美委員、高橋龍委員、中源博幸委員、中野豊委員、久末智章委員、堀口雅行委員、松原三智子委員、横尾英司委員、

市側出席者：小樽市長、総合政策部長、総合政策部企画政策室長、総合政策部企画政策室主幹

事務局：総合政策部企画政策室

（注）発言にかかる委員の個人名は表記していません。

- 1 開会（省略）
- 2 諮問（省略）
- 3 市長挨拶（省略）

（以降、会長が議長を務めるため、穴沢会長により進行）

4 基本計画の見直し方針について

○会長

それでは、今後の議事進行につきましては、私が務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。早速ですが、次第の4番目、基本計画の見直し方針について、まず事務局から説明をお願いします。

○事務局（企画政策室主幹）

（資料1を使って事務局より説明）

○会長

ありがとうございました。それでは、ただいま説明のありました基本計画の見直し方針について、御質問等ございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。特に御意見・御質問がないようですので、まずはこの方針で進めさせていただきます。

5 基本計画改訂原案について

○会長

それでは続きまして、次第の 5 番目、基本計画改訂原案について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（企画政策室主幹）

（資料 2 を使って主な修正の概要を説明）

○会長

ありがとうございました。ただいまの説明で、御質問等があればお願いします。

○A 委員

資料 2、主な修正一覧の「人口減少・少子高齢化への対応」前文で、新たな人口シミュレーションをしないことにより一本化、また「02 将来人口への適応」で、新たな人口シミュレーションをしないことにより図を削除、となっていますが、新たな人口シミュレーションをしない理由についてお伺いさせていただきたい。

○事務局（企画政策室主幹）

総合計画の策定当時に、国から示された人口ビジョンの手引きより、社人研推計のほかに、出生率を 2.1 とした場合の推計、また出生率 2.1 に加えて、社会動態の転入出がゼロの状態とした場合の推計と、2 つのシミュレーションを行って記載しております。ただ現在、出生率 2.1 という数字も現実的ではなく、社人研推計が現実的なよりどころとなるほか、元々シミュレーションを目標という形で記載していたわけではございませんので、今回新たな人口シミュレーションを行わないことにしました。そうしますと、社人研推計のみのグラフとなり、前文に記載のものとで同じようなグラフになってしまいますので、前文のほうに一本化し、令和 3 2 年までの社人研推計を記載させていただいたものです。

修正した理由は、資料 4 新旧対照表の、人口減少・少子高齢化への対応の 5/10 ページにも記載しています。

○A 委員

もともと K P I として設定していたわけではないので、ここから合計特殊出生率が 2.1 まで上がることは難しく、現実的なグラフを示すという考えでよろしいでしょうか。

○事務局（企画政策室主幹）

はい、そうです。

○B 委員

資料2の3-7「雇用・労働」の中に外国人材という文言があり、外国人は今後増やしていくという意味合いだろうと思いますが、そうしますと、先ほどの人口シミュレーションの中に、将来的に外国人が増えて、人口が増えるというシミュレーションは入っているのでしょうか。

○事務局（企画政策室主幹）

社人研推計のグラフですけれども、この推計につきましては、外国人の増加というものも含まれているというふうに承知しております。

○B 委員

小樽市の人口シミュレーションの中にも、将来的に外国人の人口が増えることを考慮してシミュレーションしているということでしょうか。

○事務局（企画政策室長）

現状、小樽市民である外国人は増え続けている状況にありまして、社人研推計というのが、今お示ししているのが2015～2020年の5年間のトレンドを反映している状況となっておりますので、近年の外国人の伸びというのは、この小樽市の社人研推計の中にも反映はされている。ただ、もしも2015～2020年の5年間のトレンドよりも外国人の今後の増加が多ければ、社人研推計よりも総人口の減少が緩やかになるということが想定されます。

○B 委員

ある程度増えると推定しているということですか。

○事務局（企画政策室長）

ある程度増えるという、そういったトレンドを反映しています。

○C 委員

今の質疑に付随してなのですが、その外国人の方たちの増え方と外国人を抜いた部分の人口の増え方を見せるような形のグラフは必要ないという判断だったのか。外国人の方を含んだ数と含んでいない数、その人口推計を比較したものは必要ないという考え方があってこのグラフとしたのか、または考えていなかったということでの案が出来たのかというところを確認してよろしいでしょうか。

○事務局（企画政策室長）

正直、この改訂原案を作った時には考えていなかったということが実態ですが、実際、外国人が増えているとは言っても、今時点で1000人弱ということで、全体人口10万人から見ると1パーセント弱ということなので、この全体のグラフの中で外国人を含んでいるものと、外国人を含まない数字を比較してもあまり変わらない数字になる。ただ、外国人の伸びというのは最近のトピックといえますか、外国人が増えることによって今後出てくるであろう課題もありますので、外国人だけのグラ

フというのを入れてもいいのかなとは思っております。

○会長

どういったグラフを入れるかというのもまた、より分かりやすい形での訂正をお願いしたいと思います。それでは、よろしいでしょうか。

6 分科会審議の進め方について

○会長

それでは続きまして、次第の6番目、分科会審議の進め方についてということで、事務局からお願いいたします。

○事務局（企画政策室主幹）

（説明概要）

- ・分科会構成については、資料5のとおり
- ・分科会長は、昨年度から引き続き、「人・暮らし・都市分科会」は松原委員、「産業振興・環境分科会」は林委員をお願いいたしたい。
- ・今後のスケジュールについては別紙補足資料のとおり

○会長

ありがとうございます。ただいま説明のありました、分科会の構成や審議の進め方、これらにつきまして、御意見・御質問等ございましたら、お願いします。

よろしいでしょうか。それでは、この方針で進めさせていただきます。

7 その他

○会長

それでは、最後となりますけれども、その他ということで、事務局から何かございましたらお願いします。

○事務局（企画政策室主幹）

（次回日程等について事務連絡）

○会長

ありがとうございます。それでは全体を通しまして、御質問等ございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。無いようですので、本日の会議はこれを持ちまして終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。